

# 未来イメージ「15の生活シーン」(案)

※ 各生活シーンに関するイメージの実現に向けた技術面、制度面等における課題と工程表について、別途、検討中。

# 未来イメージのアプローチ手法

◆ 2030～40年の日本人の暮らしぶりについて、一日の流れに沿って未来イメージを制作。  
 (ある家族の一日を追うストーリーの中で、さまざまなタイプの生活を送る人物が登場。)

## 【ストーリーの中心人物】

(父：ケンスケ) は、都市部に住むサラリーマン。外国人が多数在籍する企業に勤めているが、外国語を話したり、聞いたりするのが苦手な一面も。

(母：サトミ) は、子育てしながら働くキャリアウーマン。家の近くや生まれ故郷などで、複数の仕事を掛け持ちしながら、忙しい毎日を送っている。

(子：キヨタカ) は、勉強も遊びも大好きな小学生。友達とのプログラム開発が楽しくて、年に一度の大会にかける熱は学校イチ。

(子：ハルカ) は、保育園に通う女の子。歳の離れたお兄ちゃんよりも、家ではロボットが面白い遊び相手。

(曾祖母：ユキヨ) は、ケンスケ一家とは離れた田舎に住んでいる。近所に住む同年代の友人たちとハイキングに出かけるのが日頃の楽しみ。

(AIロボット：アイコ) は、家事のサポートだけでなく、家族のバイタルデータを収集し、体調管理も行う。家族のことを知りすぎているので、世話を焼きすぎる場面も。



## 「ひと」の未来

年齢・性別・障害の有無・国籍・所得等に関わりなく、誰もが多様な価値観やライフスタイルを持ちつつ、豊かな人生を享受できる「インクルーシブ（包容）」の社会

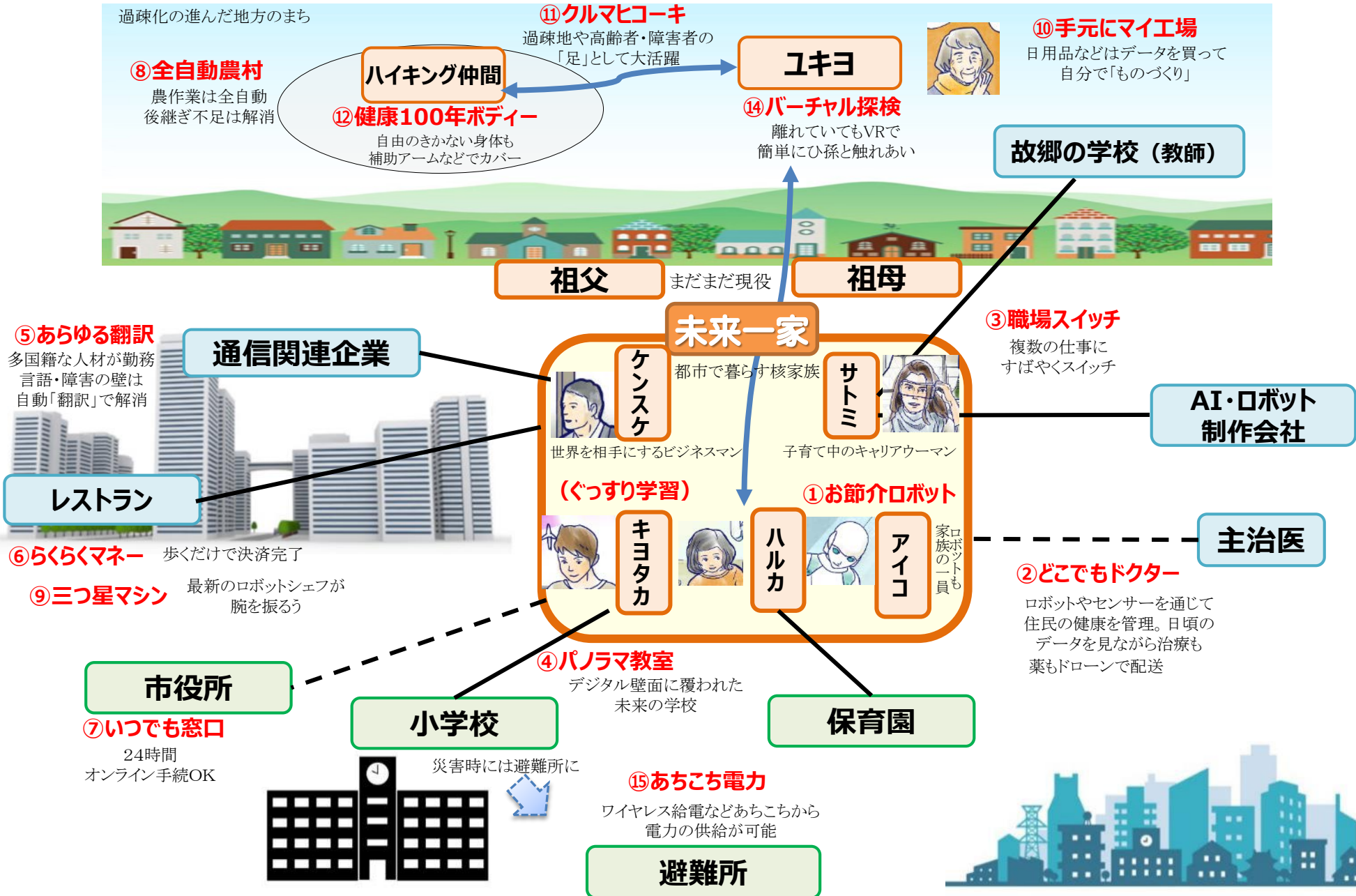
## 「産業」の未来

設計の変更を前提とした柔軟・即応のアプローチにより、技術革新や市場環境の変化に順応して発展する「トランスフォーム（変容）」の社会

## 「地域」の未来

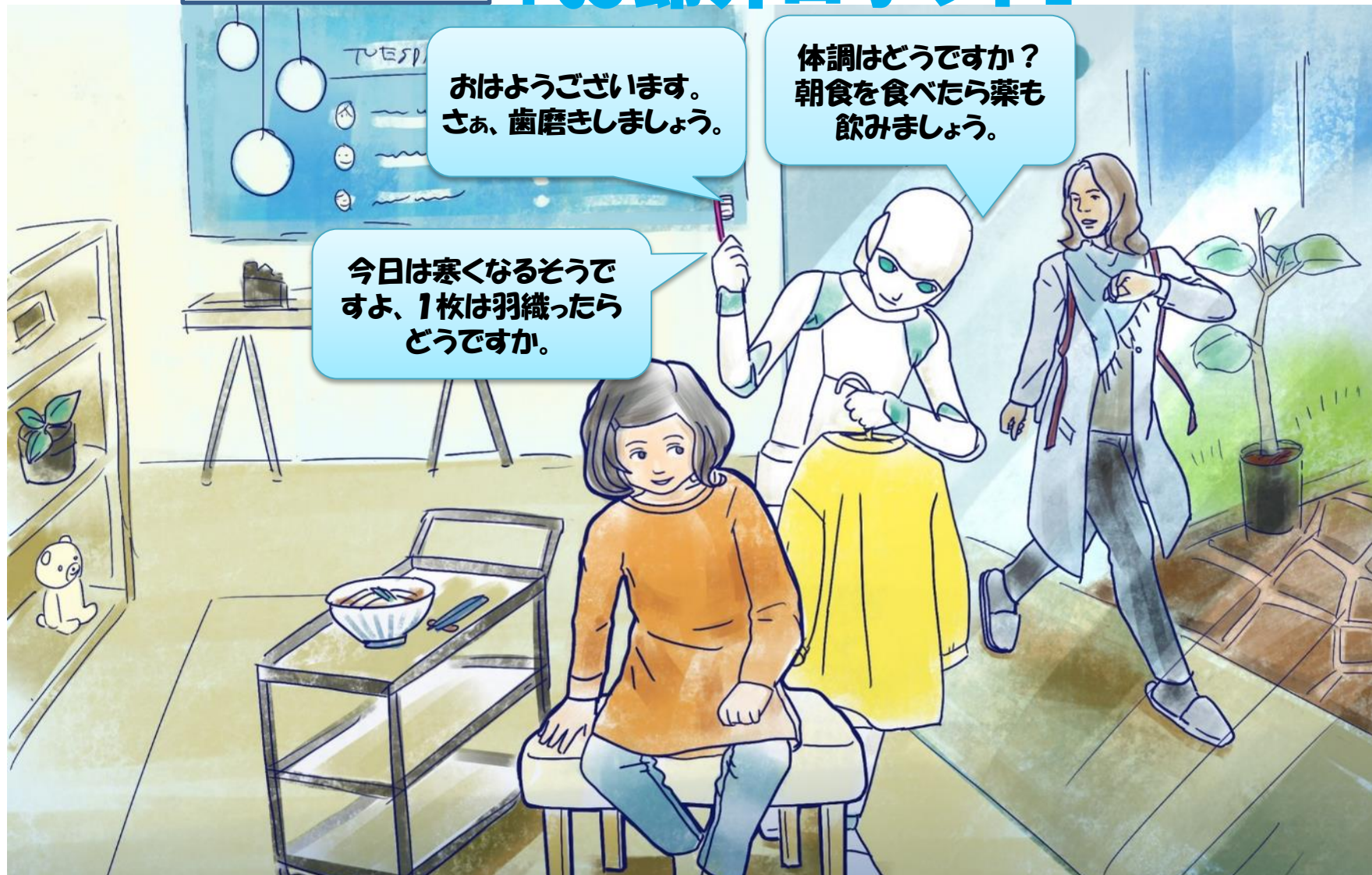
地域資源を集約・活用したコンパクト化と遠隔利用が可能なネットワーク化により、人口減でも繋がったコミュニティを維持し、新たな絆を創る「コネクティッド（連結）」の社会

# (参考) 未来一家の生活の概要



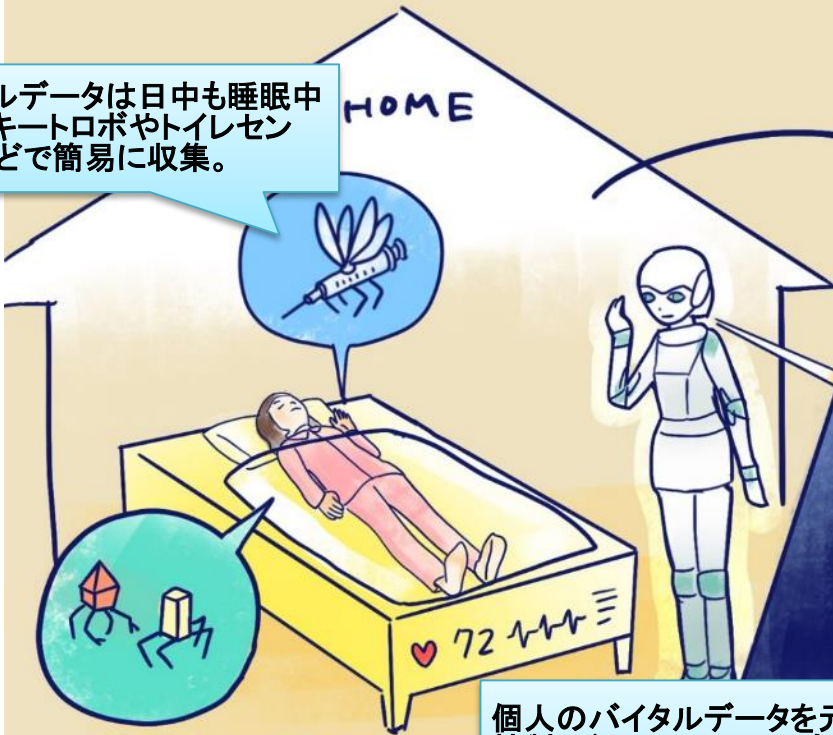
起床

## 「お節介ロボット」



目覚め・歯磨き・着替え・朝食などの忙しい朝支度をスムーズに準備させてくれるお節介な手伝いロボット。

バイタルデータは日中も睡眠中もモスクイトロボやトイレセンサーなどで簡易に収集。



HOSPITAL

日頃のバイタルデータも病院内で連携して問診や検査を省力化。



個人のバイタルデータを元に薬を精製。ドローンでいつでも配送。



家でも街中でもインプラント端末やセンサーで健康管理をサポート。異変が見つかったらAIが簡単な診断を行い、専門医に伝えて早期治療。

出社

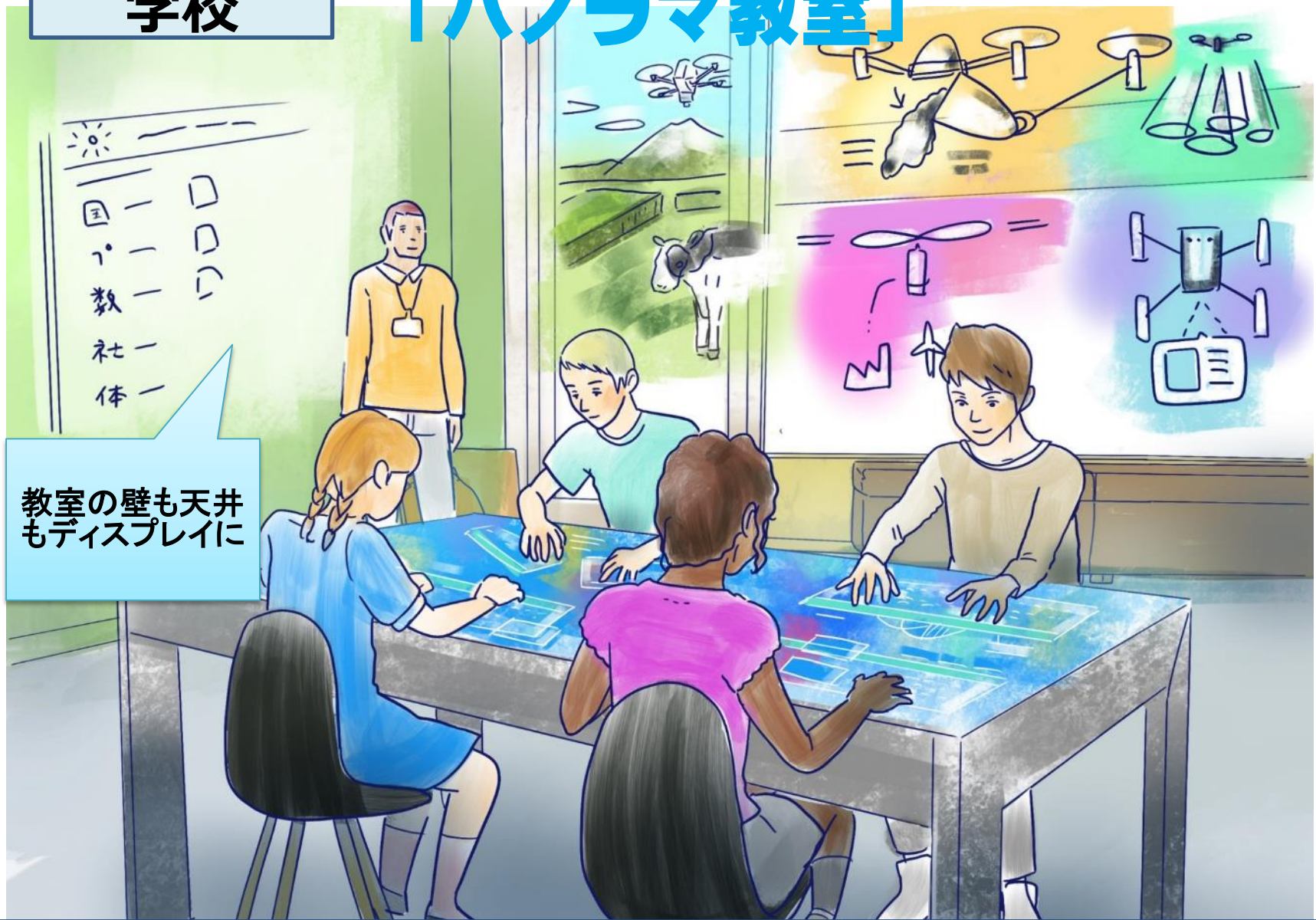
## 「職場スイッチ」



複数の仕事に就き、時間の切り売りで個人の能力を最大限発揮。家でもカフェでも、スイッチ1つで切り替わるバーチャル個室で効率サポート。

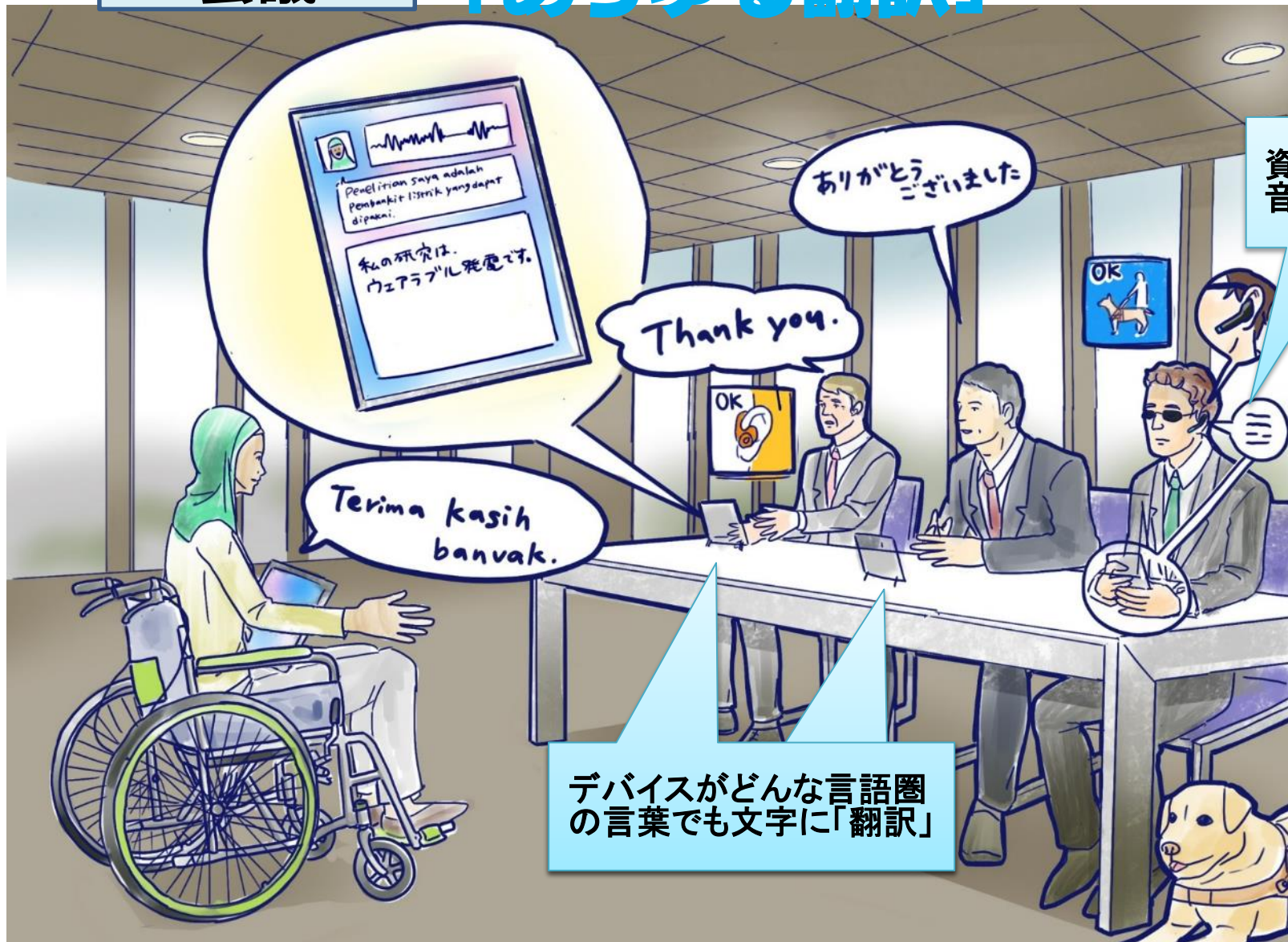
学校

## 「パノラマ教室」



教室の壁も天井もディスプレイに

壁や天井、机がすべてディスプレイになり、プログラミングで教室をデコレーション。教科書や筆箱が姿を消し、VRで遠足や体験学習も。



Terima kasih banyak.

Thank you.

ありがとうございました

資料の内容が音声に「翻訳」

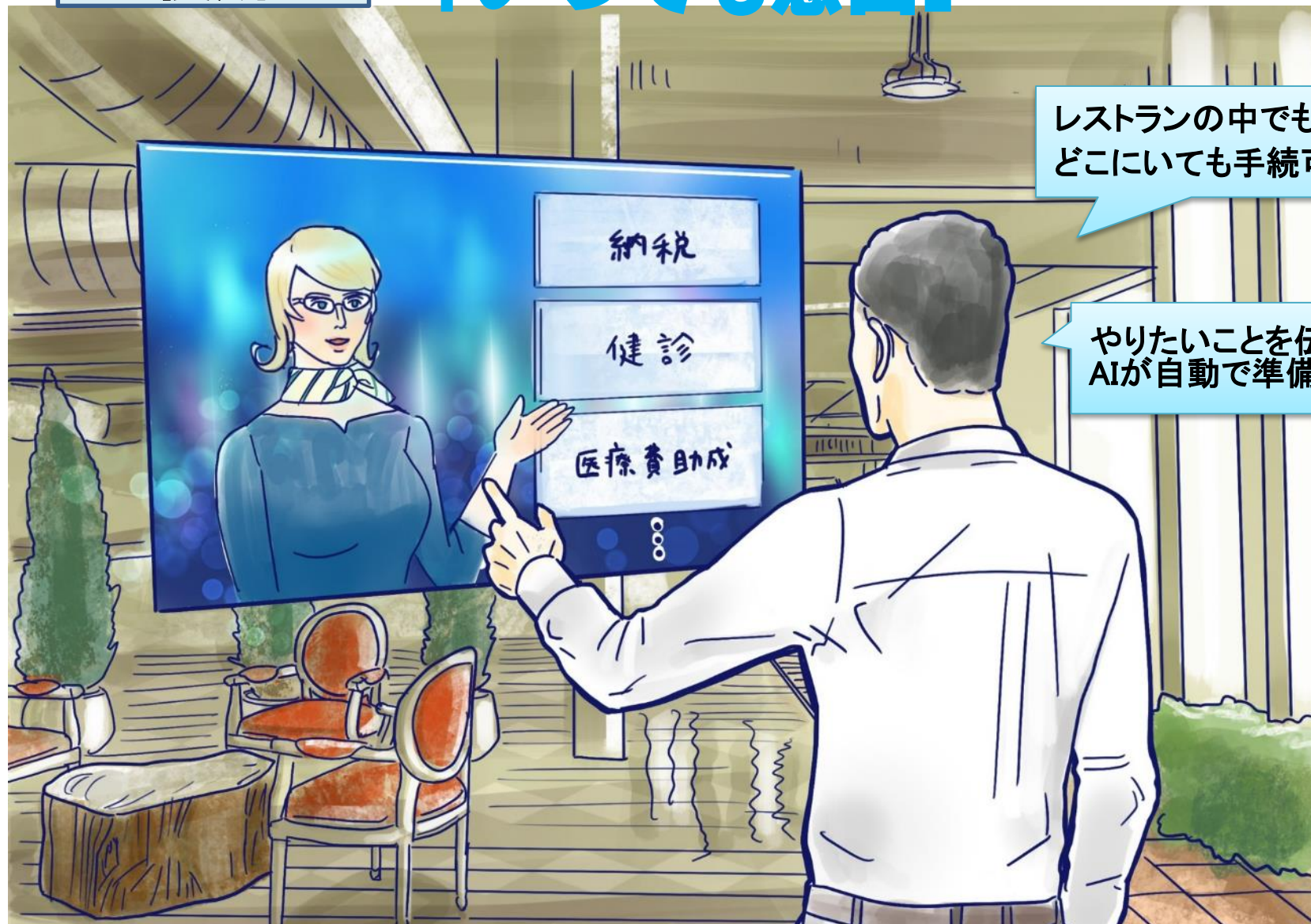
デバイスがどんな言語圏の言葉でも文字に「翻訳」

目や耳が不自由でも、外国語が苦手でも、自分の選んだメニューで会議の内容を翻訳して自在に伝えるシステム。





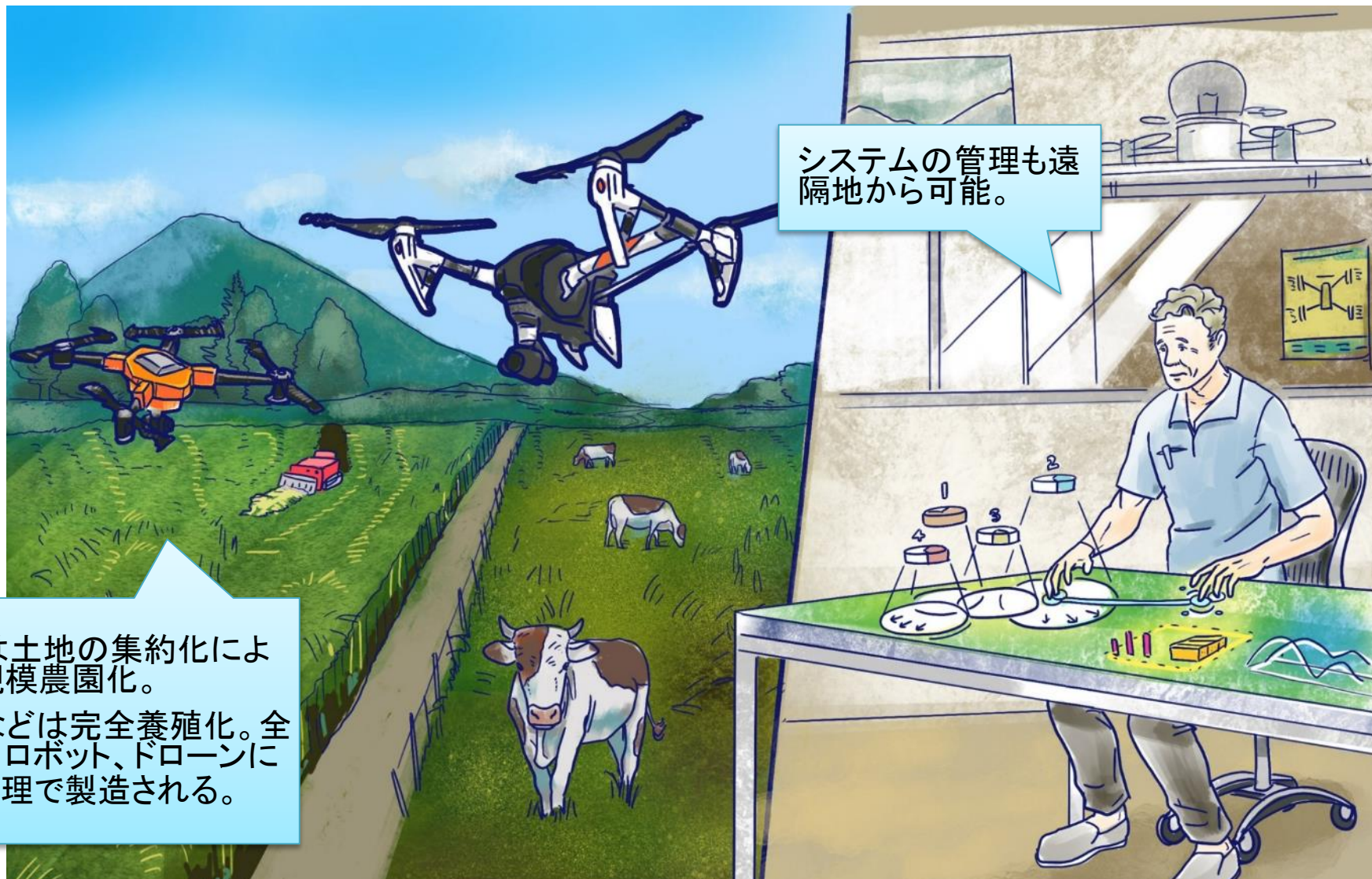
支払は完全キャッシュレス。購買履歴や信用形成も自動化され、家計管理・借入れや各種申告も簡単に。



レストランの中でも、  
どこにいても手続可能。

やりたいことを伝えれば  
AIが自動で準備。

24時間受付のネット窓口が当たり前となり、画面をさわると現れる  
忠実で有能な執事ロボが、お役所イメージを刷新。

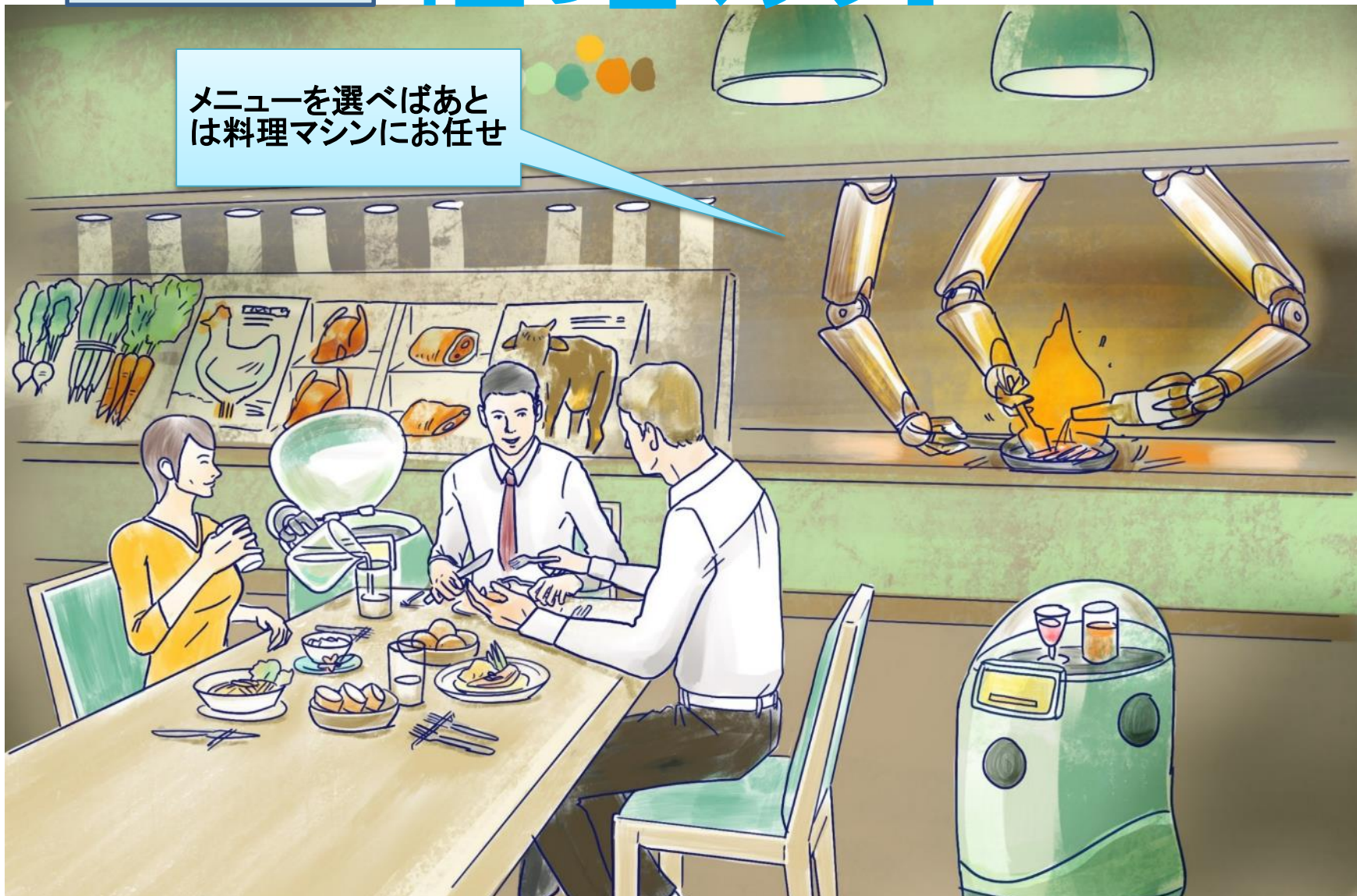


農業は土地の集約化による大規模農園化。

酪農などは完全養殖化。全てIoT、ロボット、ドローンによる管理で製造される。

農業など地場のなりわいはIoT・ドローン・ロボットが担い、人手不足や高齢者の負担を解消。生産性も高まり、景観も維持。

メニューを選べばあとは料理マシンにお任せ



各地の素材を使いつつ、個人の健康状態も加味しながら、世界中の一流レストランの味をAIが正確かつ高速で再現。

## ものづくり

## 「手元にマイ工場」

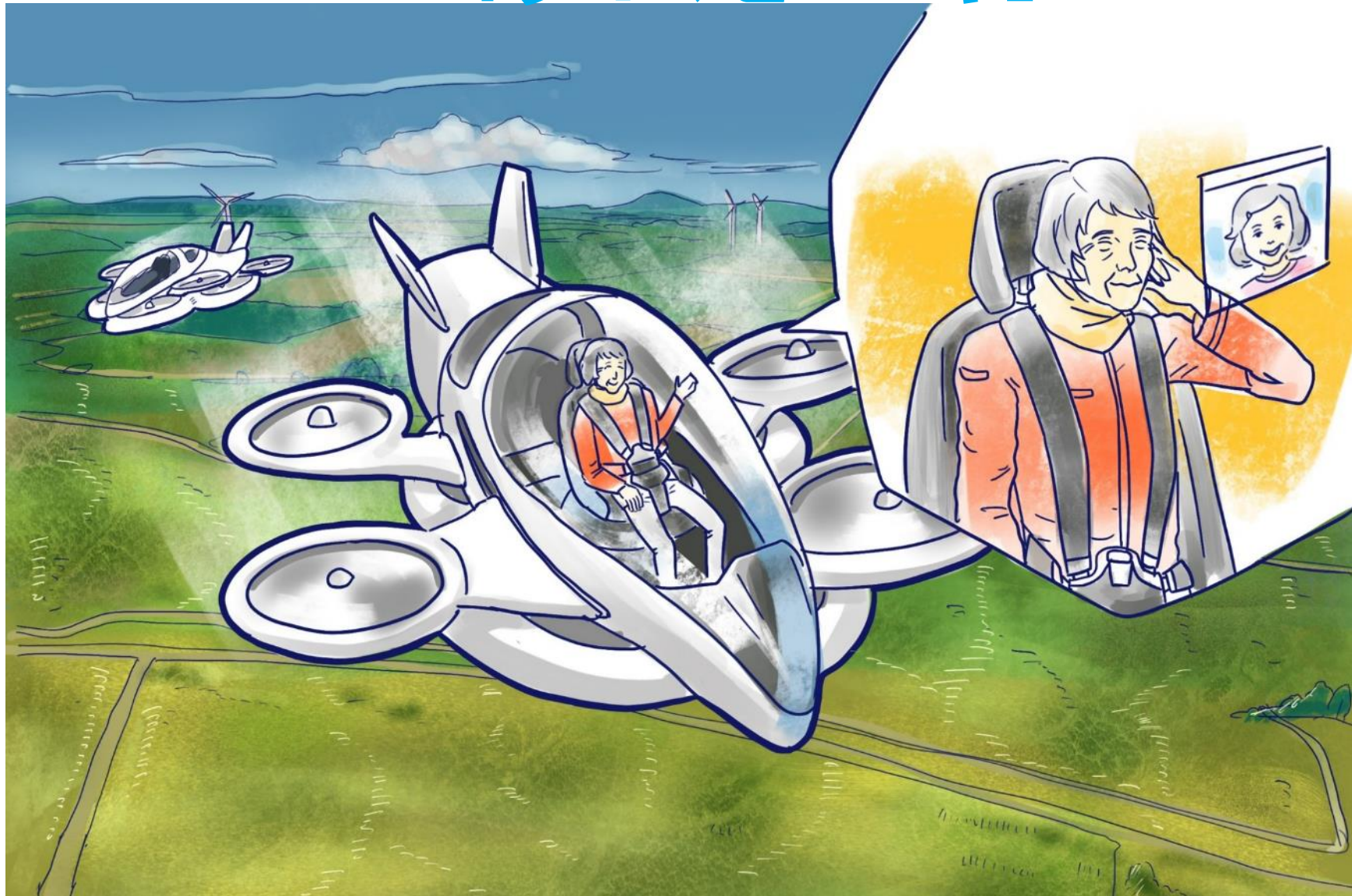
操作に不慣れな人も、慣れている人がサポートするなど、地域で助け合い。



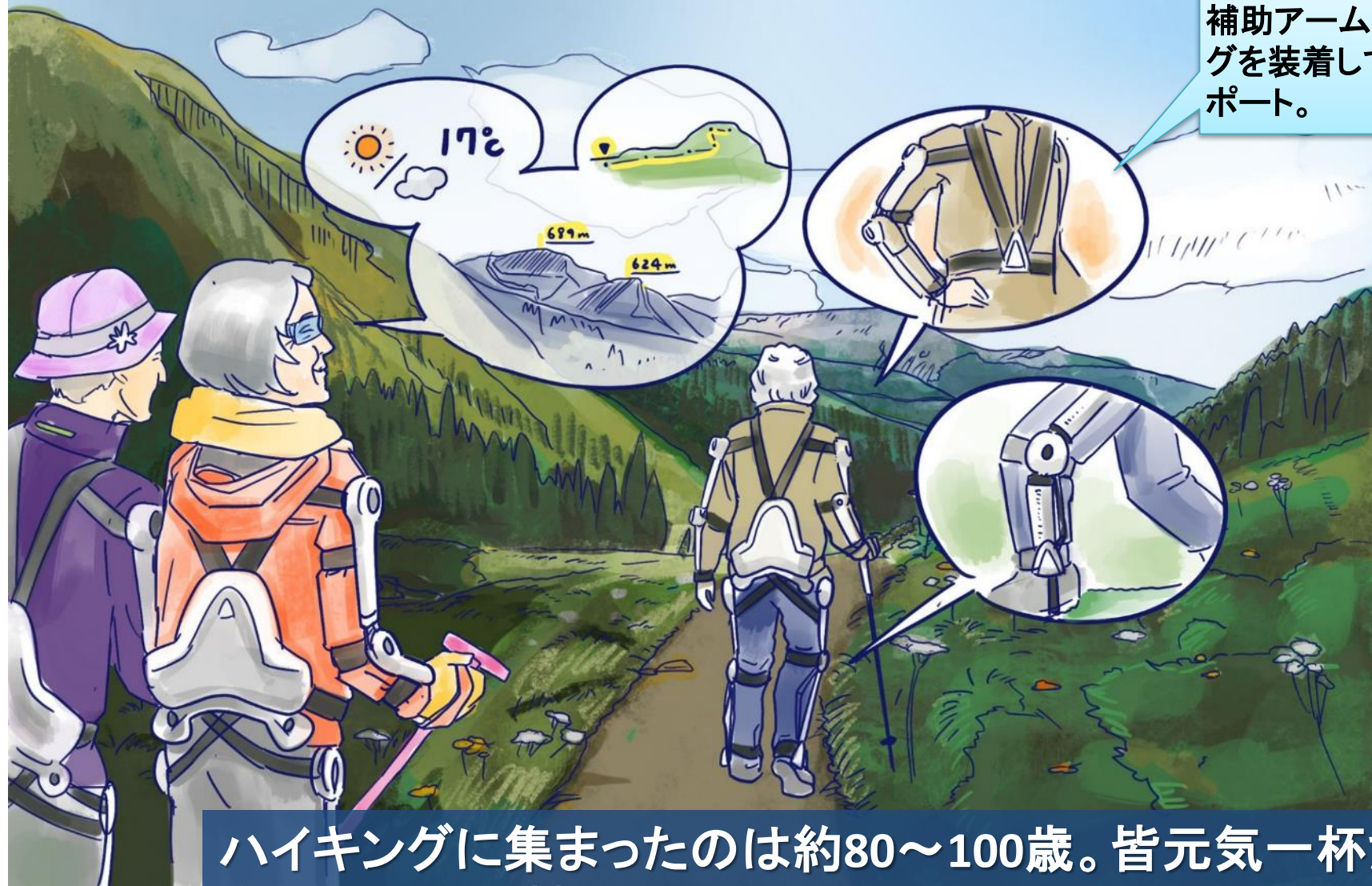
ちょっとした日用品は、自分で作れるように。コンビニも「モノ」から「データ」を売る時代に。ネットショップではお気に入りの色が品切れ。代わりにデータを買って、自分で色づけして完成。



日用品や雑貨など、データを買って自分でプリント。日頃学んだプログラミングで世界に一つだけのデザインに加工。



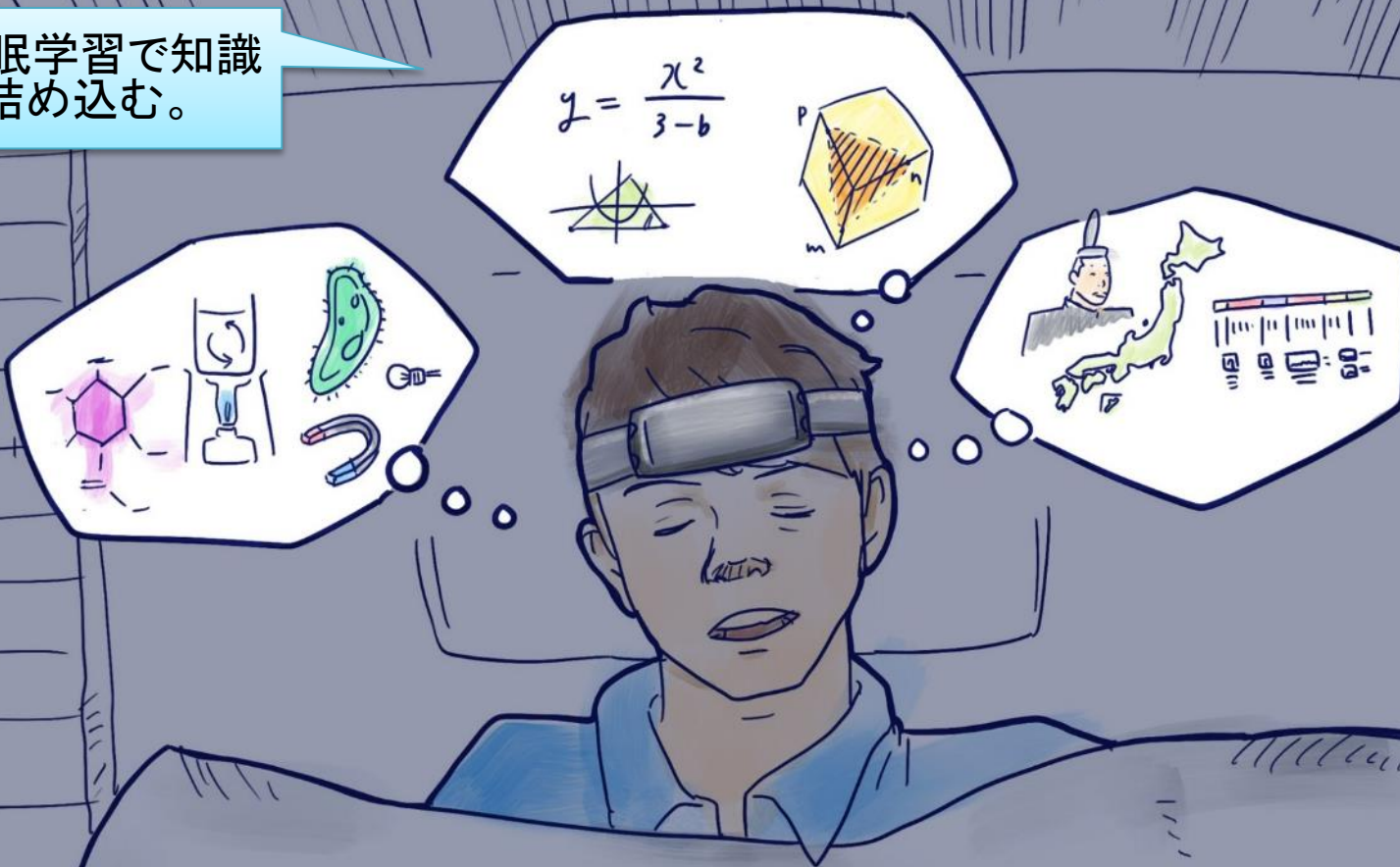
自動運転の空陸両用タクシーが近中距離の輸送手段に成長。  
過疎地や高齢者・障害者の足となり、事故や渋滞も大幅解消。



補助アームや補助レッグを装着して歩行をサポート。

ハイキングに集まったのは約80～100歳。皆元気一杯だが、身体の一部に補助アームなどを装備。

睡眠学習で知識  
を詰め込む。



必要な詰め込み知識は睡眠学習で、それ以外はAIに任せ、  
創造力の発揮で勝負する時代に。

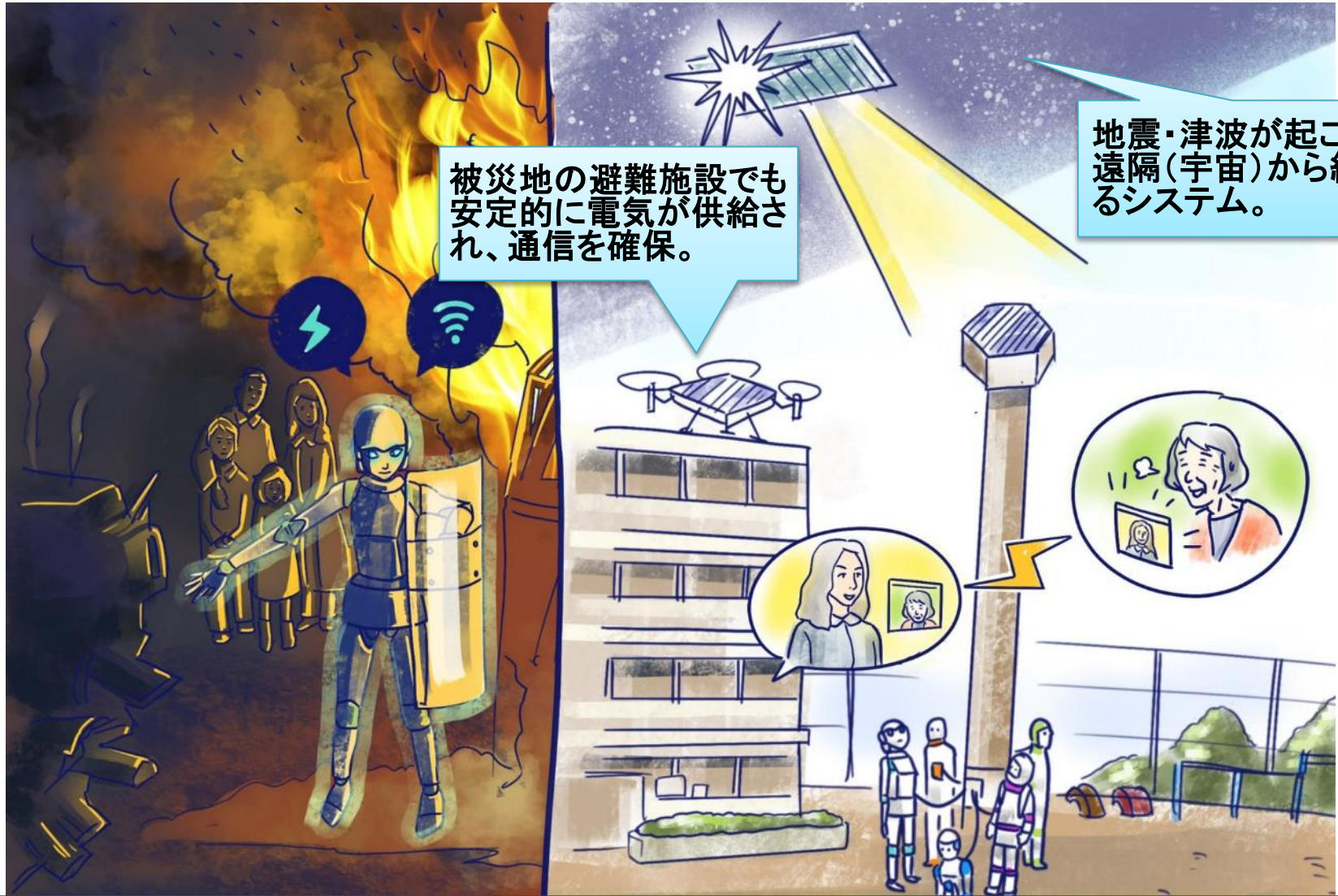




VRで深海にいる気分に。

離れたところにすむ祖父母とも一緒に体験できる。

リアルなVRで海中を360度体験。次の家族旅行に向けて、遠隔地にいる曾祖母と孫と一緒に海の生態系を学習。



被災地の避難施設でも  
安定的に電気が供給され、  
通信を確保。

地震・津波が起こっても  
遠隔(宇宙)から給電する  
システム。

超大規模な災害が発生しても、ワイヤレス給電などあちこちで電力確保。  
決して途絶えない通信で、避難誘導や安否確認に威力発揮。